

ドイツアート Bar Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、Bar のようなくつろいだ雰囲気、アートを語り合うイベントシリーズです。

今回のテーマは、『PARASOPHIA クロスレビュー』。京都では、今年3月7日～5月10日まで開催される初めての大規模な現代芸術の国際展「PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭 2015」に、大きな期待が高まっています。1月中旬～4月中旬までヴィラ鴨川に滞在中のドイツ人芸術家4人は、京都の国際展を見て何を思うのか？ ヴェネチア、台北、あいちなど国内外の国際展のキュレーションも手掛ける写真家の港千尋氏や、関西のアートシーンの変遷をつぶさに見てきたアートプロデューサーの原久子氏をゲストに迎え、外野席から自由奔放なトークを繰り広げます。

座談会の後は、館内のドイツカフェ「カフェ・ミューラー」にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。



クリス・ビアル
Chris Bierl (美術作家)

1980年生まれ。ベルリンおよびライプツヒヒ在住。ミュンヘンやライプツヒヒで、情報科学、建築、写真デザインを学んだ。工業素材やビデオを用いた精緻なインスタレーションを創作し、ドイツ、アメリカ、モンゴルなど各地の国際展に参加。数多くの賞を受賞。京都滞在中は、水墨画などの日本の伝統美術や現代アートの技法を考察し、自身のコンセプチュアルな作品づくりに活かす予定。公式サイト www.chrisbierl.com



港千尋
Chihito Minato (写真家、映像人類学者)

1960年生まれ。イメージの発生と記憶の関係などをテーマに広範な活動をつづけている。著書『記憶』(講談社1996)でサントリー学芸賞、展覧会『市民の色』(2005)で伊奈信男賞を受賞。2007年ヴェネチアビエンナーレ日本館コミッショナー、2012年台北ビエンナーレ共同キュレーターを務めた。最近の展覧会に『超自然』(東京)、『AABB 報民』(台南)など。近著に『ひょうたん美術館』など多数。多摩美術大学教授。あいちトリエンナーレ2016芸術監督。



ミヒャエル・ハンスマイヤー
Michael Hansmeyer (建築家)

1973年生まれ。2008年よりスイス連邦工科大学チューリッヒ校講師。アメリカでコンピューターサイエンス、経営学、建築を学んだ。アルゴリズムやコンピューター計算による建築方式を研究し、光州デザインビエンナーレやオルレアンのアークラボでの展示で高い評価を受ける。京都滞在中は、日本の伝統建築と現代建築の「設計法」を分析し、伝統的な設計法と最新技術を結びつけた新しい建築言語を模索する予定。公式サイト www.michael-hansmeyer.com



原久子
Hisako Hara (アートプロデューサー)

1962年生まれ。京都造形芸術大学勤務を経て1997年より、国内外で現代アート、映像、メディアアートの展覧会・イベント企画、研究を行なう。共同企画に「思い出のあした」(京都市美術館)、「六本木クロッシング2004」(森美術館)、「あいちトリエンナーレ2010」(愛知県美術館ほか)多数。共編著に『変貌する美術館』など。欧州のアーティストインレジデンスの調査(1995年～)、アジア諸国のアートのスペース調査(2000年～)を継続的に実施。大阪電気通信大学教授。



ヤン・クロップフライシュ
Jan Klopffleisch (美術作家)

1972年生まれ。ベルリン在住。ベルリンで絵画を学んだ後、ドイツ内外で絵画やインスタレーションを発表。2004年と2006年、DAAD奨学金を受けて日本に短期滞在し、京都でも「段ボール箱の家」等の展示を行った。抽象性や具象性をこえた絵画のあり方を探る作品づくりを展開。ヴィラ鴨川滞在中は、駅構内など匿名性を持つ都市空間、および、日本の庭園文化を考察し、芸術的なアプローチを試みる予定。公式サイト www.janklopffleisch.de



小崎 哲哉
Tetsuya Ozaki (司会・構成)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALTOKYO』『REALKYOTO』発行人兼編集長。CD-ROMブック『デジタル歌舞伎エンサイクロペディア』、写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学院、同志社大学、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年冬、『続・百年の愚行』を刊行。



ゲジーネ・シュミット
Gesine Schmidt (劇作家、ドラマトウルク)

1966年生まれ。ベルリン在住。ポツダムで比較文学と演劇学を学んだ後、ベルリン・ドイツ座やマキシム・ゴーリキ劇場等でドラマトウルクを務めた。劇作家・ラジオドラマ作家としても活躍し、ドイツ語圏の主要劇場で作品が上演されている。特に映画監督A.ファイエルと共に執筆した戯曲『キック』は舞台化・映画化され、多数の賞を受賞。ヴィラ鴨川滞在中は、多くの日本人女性にインタビューを行い、日本の女性の現状を描いた戯曲を執筆する予定。

交通のご案内
京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分



主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町19-3
(川端通り荒神橋上る)
TEL: 075-761-2188 (内線 31#)
info@villa-kamogawa.goethe.org
www.goethe.de/villa-kamogawa



館内のドイツカフェ『カフェ・ミューラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。

